

令和 4 年度
豊島区動植物生態調査報告書

令和 5 年 3 月

令和4年度 豊島区動植物生態調査 報告書

目次

第Ⅰ章 調査の目的および概要	
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の概要	1
第Ⅱ章 調査の内容	
1. 調査の対象および方法	2
(1) 植物	2
(2) 昆虫類（大型種）	2
(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）	2
(4) 水生生物調査	2
2. 調査期間	2
3. 調査地	
(1) 南長崎はらっぱ公園	3
(2) 池袋の森	3
(3) 駒込小学校	3
(4) 富士見台小学校	3
4. 評価方法	4
(1) 国および都レッドリスト記載種	4
(2) 外来種	5
第Ⅲ章 動植物生態調査結果	
1. 植物調査	6
(1) 調査結果概要	6
(2) レッドリスト記載種	6
(3) 外来種	7
(4) 各調査地の確認状況	12
(5) 考察	16
2. 昆虫類調査	18
(1) 調査結果概要	18
(2) レッドリスト記載種	18
(3) 外来種	18
(4) 各調査地の確認状況	21
(5) 考察	25
3. その他小動物調査	28
3-1 哺乳類	28
3-2 爬虫類	28
(1) 調査結果概要	28
(2) レッドリスト記載種および外来種	28
(3) 考察	28
3-3 両生類	29
(1) 調査結果概要	29
(2) レッドリスト記載種および外来種	29

(3) 考察	29
4. 水生生物調査	31
(1) 調査結果概要	31
(2) レッドリスト記載種	31
(3) 外来種	33
(4) 各調査地の確認状況	34
(5) 考察	37
5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案	39
(1) 南長崎はらっぱ公園	39
(2) 池袋の森	39
(3) 駒込小学校	39
(4) 富士見台小学校	40
(5) ビオトープ全般に対する提案	41

第 I 章 調査の目的および概要

1. 調査の背景と目的

本調査の目的は、平成 31 (2019) 年 3 月策定の「豊島区環境基本計画」の施策における、生物多様性に関する情報収集である。

平成 27 年度までに、区内の特に重要と思われる緑地は調査を終了した。しかし、区西部の小規模の緑地については生物相が把握されていなかったことから、平成 28 年度には区西部に約 1.5km のルートを設定し、昆虫類や小動物の調査を行った。平成 29～30 年度には区西部に位置する南長崎はらっぱ公園ビオトープにおいて、生物多様性保全に配慮した維持管理と植物の概況調査および水生生物調査を行った。

「豊島区環境基本計画 2019-2030」では、生物多様性を保全する重点施策の中に「自然環境の保全と創出」を掲げており、区有施設ビオトープの整備と維持管理が進められている。区有施設ビオトープの中の学校ビオトープについても、モニタリング調査が平成 31 (令和元) 年度から開始された。

今年度は、区有施設ビオトープのうち、南長崎はらっぱ公園、池袋の森、駒込小学校、富士見台小学校のビオトープを選定し、動植物相の把握を行った。

2. 調査の概要

調査工程を表 I - 2 - 1 に示す。対象は、植物、昆虫類 (大型種)、その他小動物 (哺乳類、爬虫類、両生類)、水生生物 (魚類、水生昆虫類、甲殻類等) である。各分類群で年 2 回、それぞれの特徴を把握するために最適な時期を設定した。

表 I - 2 - 1 動植物生態調査の工程

調査項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植物											
昆虫類											
水生生物											
その他小動物											

第Ⅱ章 調査の内容

1. 対象および方法

(1) 植物

植栽を含む、全ての維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）を対象とした。植栽の判断は、調査地の立地条件、植物の分布域、栽培品種・外来種であるか否か、花壇や植栽地に列になって生育しているかなどの状況などをもとに行った。

調査方法は、任意踏査による目視とした。

(2) 昆虫類（大型種）

生態に関する知見が比較的蓄積されている大型昆虫（トンボ類、カマキリ類、バッタ類、セミ類、カメムシ類、チョウ類など）を基本とし、訪花性昆虫を調べるため、ハナアブ類、ハチ類なども対象とした。

調査方法は、任意採集による見つけ採り法、スウィーピング法を用いた。

※スウィーピング法：捕虫網により、樹上や草地にいる昆虫類をすくい捕って採集する調査方法

(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）

昆虫調査に並行して実施した。

調査方法は、任意踏査による目視とした。

(4) 水生生物調査

魚類、水生昆虫類、甲殻類等、肉眼で目視できる水生生物を対象とした。

調査方法は、タモ網及び魚用小型網を捕獲する方法とした。捕獲後、記録および写真撮影を行い、アメリカザリガニは駆除、それ以外の生物は池に戻した。

2. 調査期間

- ・植 物：春期調査 令和4年 5月24日、5月25日
秋期調査 令和4年 10月19日、10月20日
- ・昆虫類：夏期調査 令和4年 7月19日、7月27日
秋期調査 令和4年 9月6日、9月12日
- ・水生生物：秋期調査 令和4年 9月6日、9月12日
冬期調査 令和5年 3月1日、3月2日
- ・その他小動物：昆虫調査に並行して実施。

3. 調査地

(1) 南長崎はらっぱ公園

草地の広場が中心の公園である。園内にはビオトープが設けられ、隣接して花壇が整備されている。公園の西側は「いのちの森植樹」が行われ、主に常緑広葉樹の樹林となっている。



(2) 池袋の森

屋敷跡地で、現在は公園として開放されている。研究用に植栽された外国産の樹木を含む樹林、草地、井戸水をくみ上げた池がある。平成 27 年度にも生態調査が行われている（「平成 27 年度 豊島区動植物生態調査報告書」参照）。



(3) 駒込小学校

平成 23 年に理科園を改修し、ビオトープが造られた。石垣でできた池と、畑、田んぼが隣接している。

校庭には‘駒桜’と呼ばれるソメイヨシノがあり、区の開花標準木となっている。



(4) 富士見台小学校

平成 25 年に、校庭の樹林地に池が造られた。樹木はそれ以前から残っているものである。フェンスがあり、立ち入りが制限されている。池の上流には水路がつながり、数年前までホタルが飼育されていた。



図 II - 3 - 1 調査地

4. 評価方法

確認種の中から希少種および外来種の抽出を行い、区内の動植物相を考察する一助とした。

(1) 国および都レッドリスト記載種

環境省が作成しているレッドリスト（「環境省レッドリスト 2020」以下、国 RL）と、東京都が作成しているレッドリスト（「東京都レッドリスト（本土部）2020年版」以下、都 RL）に記載されている種の抽出を行った。

表Ⅱ-4-1に各カテゴリーの基本概念を示す。

表Ⅱ-4-1 国および都レッドリストのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去の環境改変により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)
ランク外 (都RLのみ)	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し (都RLのみ)	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 (都RLのみ)	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った。

(2) 外来種

外来種として、環境省及び農林水産省が作成した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（以下、「生態系被害防止外来種リスト」）に記載されている種の抽出を行った。この中には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以下、「外来生物法」）で指定された特定外来生物*も含まれる。

表Ⅱ-4-2に各カテゴリーの概念を示す。

* **特定外来生物**：外来生物（海外起源の外来種）であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれる。飼育、栽培、保管及び運搬、輸入が原則禁止されている。また、野外へ放つ、植える及びまくこと、譲渡し、引渡しなどをすることが禁止され、許可を受けて飼養等をする場合は個体識別等の措置を講じる義務がある。

表Ⅱ-4-2 生態系被害防止外来種リストのカテゴリー区分

カテゴリー	概念
(1) 定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
(i) 侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
(ii) その他の定着予防外来種	侵入の情報はあがるが、定着は確認されていない種。
(2) 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。
(i) 緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
(ii) 重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
(iii) その他の総合対策外来種	総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種に該当しないもの。
(3) 適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方：

（被害の深刻度に関する基準）

①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大

②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い

③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い

④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす（対策の実効性、実行可能性）

⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

第三章 動植物生態調査結果

1. 植物調査

(1) 調査結果概要

植物は、109科 389種が確認された（表Ⅲ－1－1）。変種や品種、園芸品種など、種レベル以下の分類も含む。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 233 種、池袋の森 146 種、駒込小学校 154 種、富士見台小学校 156 種であった。

(2) レッドリスト記載種

9種が確認された（表Ⅲ－1－2）。うち7種は植栽である。

駒込小学校のキケマンは都RL（区部）で絶滅危惧ⅠA類（CR）となっている。池のふちに1株、百葉箱が設置されているフェンス内に1株、生育しており、自生状態と思われる。留意種となっているタカサブロウも、アメリカタカサブロウと混生して畑のふちに生育していた。

表Ⅲ－1－2 確認されたレッドリスト記載種（植物）

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	池袋の森	駒込 小学校	富士見台 小学校	国RL	都RL (区部)	備考
ドクダミ科	ハンゲショウ	●					EN	植栽
ラン科	シラン	●				NT		植栽
ミクリ科	ミクリ	●				NT	VU	植栽
ケシ科	キケマン			●			CR	
アカネ科	ハクチョウゲ				●	EN		植栽
シソ科	コムラサキ	●	●		●		CR	植栽
ミツガシワ科	ミツガシワ	●					CR	植栽
	アサザ				●	NT	EN	植栽
キク科	タカサブロウ			●			*④	
8	9	5	1	2	3	4	7	



キケマン（葉）
（令和4年5月24日 駒込小学校）



キケマン（花）
※参考。別地点で撮影

図Ⅲ－1－1 確認された主なレッドリスト記載種（植物）

(3) 外来種

生態系被害防止外来種リスト記載種は、24種が確認された（表Ⅲ－1－3）。

どの調査地でも、重要対策外来種のノハカタカラクサとトウネズミモチが生育していた。特に、南長崎はらっぱ公園を除く3調査地では、ノハカタカラクサがマット状に広がり、トウネズミモチも結実し周囲に実生が確認された。

その他、各調査地における生態系被害防止外来種リスト記載種については「3. 各調査地の確認状況」で述べる。

表Ⅲ－1－3 確認された生態系被害防止外来種リスト記載種（植物）

生態系被害防止外来種リストカテゴリ	種名	南長崎はらっぱ公園	池袋の森	駒込小学校	富士見台小学校	備考	
総合対策外来種	重点対策外来種	フサジュンサイ		●		植栽	
		スイレン属の一種	●			植栽	
		オオカナダモ			●	●	植栽
		ノハカタカラクサ	●	●	●	●	
		ホテイアオイ	●				植栽
		ニワウルシ	●				
		アフリカホウセンカ				●	植栽
		アサガオ			●		植栽
		マルバアサガオ	●		●		植栽
		トウネズミモチ	●	●	●	●	一部植栽
		セイタカアワダチソウ	●			●	
	セイヨウタンポポ	●	●	●	●		
	その他の総合対策外来種	エニシダ	●				植栽
		カザンデマリ	●	●			植栽
		オオキバナカタバミ				●	
		ムシトリナデシコ	●				
		ヤナギバルイラソウ	●				植栽 ルエリア
		マルバフジバカマ	●			●	
		ムラサキカッコウアザミ	●				植栽 アゲラタム
キク	●				植栽 イエギク		
産業対策外来種	ハリエンジュ	●					
	ビワ	●	●	●	●	植栽	
その他の総合対策外来種 国内由来	シュロ	●	●	●	●	一部植栽	
		24	19	7	9	10	



ノハカタカラクサ
(令和4年5月24日 駒込小学校)



トウネズミモチ
(令和4年10月19日 富士見台小学校)

図Ⅲ－1－2 確認された主な外来種（植物）

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(1/4)

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	池袋の森	駒込 小学校	富士見台 小学校	国RL	都RL (区部)	外来種	備考
トクサ科	スギナ	●			●				
	トクサ				●				植栽
イノモトソウ科	ホウライシダ			●					
	オオハノイノモトソウ		●						
	イノモトソウ		●	●					
ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ		●	●					
メシダ科	イヌワラビ	●	●	●	●				
オンシダ科	リョウメンシダ		●						植栽
	ナガバヤブソテツ		●	●					植栽
	オニヤブソテツ			●	●				植栽
	テリハヤブソテツ		●						植栽
	ベニシダ		●						植栽
ソテツ科	ソテツ			●					植栽
イチョウ科	イチョウ	●	●	●	●				植栽
マツ科	ヒマラヤスギ			●	●				植栽
マキ科	イヌマキ		●						植栽
ヒノキ科	サワラ		●						植栽
	コウヨウザン		●						植栽
	メタセコイア				●				植栽
	コノテガシワ		●						植栽
	ラクウショウ		●						植栽
イチイ科	イチイ				●				植栽
	カヤ				●				植栽
ジュンサイ科	フサジュンサイ			●				総合-重点	植栽 ハゴロモモ
スイレン科	スイレン属の一種	●						総合-重点	植栽 園芸スイレン
センリョウ科	センリョウ	●							植栽
ドクダミ科	ドクダミ	●	●	●	●				
	ハンゲショウ	●					EN		植栽
モクレン科	ユリノキ		●						植栽
	タイサンボク				●				植栽
	コブシ	●		●	●				植栽
クスノキ科	クスノキ	●		●	●				植栽
	ゲツケイジュ			●					植栽
	タブノキ	●	●	●					植栽
	シロダモ		●						植栽
ショウブ科	セキショウ		●		●				植栽
サトイモ科	サトイモ		●						植栽
	オランダカイウ	●							植栽 カラー
トチカガミ科	オオカナダモ			●	●			総合-重点	植栽
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	●	●		●				
	ナガイモ		●						
ラン科	シラン	●				NT			植栽
アヤメ科	シヤガ	●	●		●				植栽
	ニワゼキショウ	●							
ヒガンバナ科	ムラサキクンシラン	●		●					植栽 アガパンサス
	ノビル	●		●	●				
	ヒガンバナ	●	●		●				植栽
	シロバナマンジュシャゲ	●	●						植栽
	ハタケニラ	●							
	タマズダレ	●							植栽
クサスギカズラ科	ハラシ		●	●	●				植栽
	ドイツスズラン	●							植栽
	コバキボウシ	●							植栽
	ヤブラン	●		●	●				植栽
	ジャノヒゲ	●		●	●				植栽
	ナガバジャノヒゲ	●	●	●					植栽
	オオアマナ	●							植栽
	アマドコロ			●					植栽
	オモト				●				植栽
ヤシ科	シュロ	●	●	●	●			国内-総合-その他	一部植栽
ツユクサ科	ツユクサ	●		●	●				
	ヤブミョウガ		●	●					
	ノハカタカラクサ	●	●	●	●			総合-重点	
	オオムラサキツユクサ				●				
ミスアオイ科	ホテイアオイ	●						総合-重点	植栽
カンナ科	ハナカンナ	●							植栽
ショウガ科	ミョウガ	●	●	●					植栽
ガマ科	ヒメガマ	●	●						植栽
ミクリ科	ミクリ	●				NT	VU		植栽
イグサ科	クサイ	●	●		●				
カヤツリグサ科	エナシヒゴクサ				●				
	マスクサ	●							
	ナキリスゲ	●	●	●	●				
	カンスゲ	●			●				
	ヒメクグ		●						
	カヤツリグサ	●							
	フタイ	●							植栽
イネ科	ノハラズズメノテッポウ			●	●				
	コブナグサ	●							
	イヌムギ	●							
	ジュズダマ	●	●						
	メヒシバ	●	●	●	●				
	コメヒシバ	●	●	●					
	ヒメイスビエ	●							
	オヒシバ	●		●	●				
	アオカモジグサ	●	●		●				
	チガヤ	●							
	ササガヤ				●				
	ヒメアシボソ				●				
	オギ	●							
	ススキ	●							
	コネズミガヤ	●							
	ケチヂミザサ		●	●	●				
	イネ			●	●				植栽
	ヌカキビ			●	●				
	ヨシ								
	アズマネザサ	●	●						

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(2/4)

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	池袋の森	駒込 小学校	富士見台 小学校	国RL	都RL (区部)	外来種	備考
イネ科	ミゾイチゴツナギ				●				
	アオスズメノカタビラ			●	●				
	スズメノカタビラ	●	●	●	●				
	ナガハグサ	●							ケンタッキーブルーグラス
	ヒエガエリ	●							
	クマザサ					●			植栽
	アキノエノコログサ	●	●						
	エノコログサ	●	●	●	●				
	ムラサキエノコ		●						
	ケシ科	キケマン			●			GR	
ムラサキケマン				●	●				
タケニグサ		●							
ナガミヒナゲシ		●		●	●				
アケビ科	ミツバアケビ	●							
メギ科	ナンテン	●	●	●	●			植栽	
キンボウゲ科	オオヒエンソウ	●						植栽 デルフィニウム	
スズカケノキ科	モミジバズカケノキ	●		●				植栽	
ユズリハ科	ユズリハ	●	●	●				植栽	
	ヒメユズリハ	●	●	●				植栽	
ペンケイソウ科	コモチマンネングサ	●	●						
ブドウ科	マンネングサ属の一種	●			●			植栽 セダム	
	ヤブガラシ	●	●	●	●				
	ツタ		●		●				
ブドウ属の一種	ブドウ属の一種		●		●			植栽 ブドウ	
	アメリカフウロ	●	●	●	●				
	ゲンノショウコ	●							
ミソハギ科	メキシコハナヤナギ	●						植栽	
	サルズベリ	●			●			植栽	
アカバナ科	ユウゲシヨウ	●			●				
マメ科	ネムノキ	●							
	ヤブマメ	●	●		●				
	ハナズオウ	●			●				植栽
	エニシダ	●						総合-その他	植栽
	インゲンマメ			●					植栽
	エンドウ			●					植栽
	ハリエンジュ	●						産業	
	エンジュ		●	●	●				
	シロツメクサ	●							
	ヤハズエンドウ	●							
	フジ					●			
バラ科	セイヨウミザクラ			●					植栽
	ヤマザクラ	●	●		●				植栽
	サトザクラ				●				植栽
	サクラ属の一種				●				植栽
	オオシマザクラ			●					植栽
	ソメイヨシノ	●		●	●				植栽
	ボケ	●							植栽
	ビワ	●		●	●			産業	植栽
	ヤマブキ	●	●		●				植栽
	イヌリンゴ				●				植栽 ヒメリンゴ
	レッドロビン	●							植栽
	ヘビイチゴ	●	●	●					植栽
	アンズ			●					植栽
	ウメ			●	●				植栽
	カザンデマリ	●	●					総合-その他	植栽
	バラ属の一種	●							植栽
	ナナカマド	●							植栽
	コデマリ			●					植栽
	シモツケ	●	●	●					植栽
	ユキヤナギ	●		●	●				植栽
ニレ科	ケヤキ			●				植栽	
アサ科	ムクノキ	●	●		●			植栽	
	エノキ	●	●	●				植栽	
クワ科	ヒメコウゾ		●					植栽	
	カシキ		●					植栽	
	クワクサ	●	●	●	●				
	イヌビワ		●	●					
ヤマダクワ	ヤマダクワ	●	●		●				
	アオカラムシ	●							
アオミス	アオミス		●						
	セイヨウカボチャ				●			植栽	
ヘチマ	ヘチマ			●	●			植栽	
	カラスウリ	●	●						
	キカラスウリ		●	●					
クワ	クワ		●					植栽	
	スタジイ	●						植栽	
	マテバシイ	●		●				植栽	
	クヌギ	●	●					植栽	
	アラカン	●		●	●			植栽	
	シラカシ	●	●	●				植栽	
	ウバメガシ				●			植栽	
	ウラジログシ		●					植栽 苗圃	
	ヤマモモ	●	●	●				植栽	
クルミ科	オニグルミ	●						植栽	
	カシグルミ		●					植栽 テウチグルミ	
ニシキギ科	マサキ	●	●						
カタバミ科	イモカタバミ				●				
	ベニカタバミ	●							
	カタバミ	●	●	●	●				
	ウスアカカタバミ	●		●	●				
	アカカタバミ	●		●	●				
	ムラサキカタバミ	●	●	●	●				
	オウツチカタバミ	●	●	●	●				
	オオキバナカタバミ				●			総合-その他	
	エノキグサ	●	●	●	●				
アカメガシワ	アカメガシワ	●	●	●	●				
	シラキ			●				植栽	
オトギリソウ科	ヒベリクム "ヒドコート"			●				植栽 タイリンキンシバイ	
	ビヨウヤナギ	●						植栽	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(3/4)

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	池袋の森	駒込 小学校	富士見台 小学校	国RL	都RL (区部)	外来種	備考
スミレ科	タチツボスミレ		●						
	アメリカスミレサイシン	●	●	●	●				
アブラナ科	パンジー	●							植栽
	セイウアブラナ	●							植栽
	フロッコリー			●					植栽
	ナズナ		●	●	●				
	タネツケバナ			●					
	カラクサナズナ	●							
	マメグンバイナズナ	●							
	シヨカツサイ		●	●					
ウルシ科	イヌガラシ			●					
	ハゼノキ			●					植栽
ムクロジ科	オオモミジ				●				植栽
	トウカエデ	●			●				植栽
	イロハモミジ	●	●	●	●				植栽
	ベニバナトチノキ		●		●				植栽
	フウセンカズラ				●				植栽
	ムクロジ			●					植栽
ニガキ科	ニワウルシ	●					総合-重点		
センダン科	センダン	●						植栽	
ミカン科	ナツミカン				●				植栽
	ミカン属の一種	●		●					植栽
コムカンソウ科	サンショウ	●	●	●					植栽
	ナガエコミカンソウ	●							
アオイ科	オクラ			●					植栽
	タイワンツナン			●					植栽 モロヘイヤ
	アオギリ			●					植栽
	ムクゲ	●			●				植栽
	ゼニアオイ				●				
	ゼニバアオイ	●			●				
ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ	●		●				植栽	
タデ科	ワイヤーブランツ	●							植栽
	ミスヒキ	●	●		●				
	イヌタデ	●	●	●	●				
	アレチギシギシ	●							
ナデシコ科	ムシトリナデシコ	●						総合-その他	
	オランダミミナグサ			●	●				
	カーネーション	●							植栽
	ナデシコ属の一種			●					植栽 ダイアンサス
	シュツコンカスミソウ	●							植栽
	ツメクサ			●					
	ハマツメクサ	●	●	●					
ヒユ科	コハコベ	●	●	●					
	ヒナタイノコヅチ	●	●	●	●				
	ホナガイヌビユ			●					
	ホウキギ	●							植栽 コキア
	シロザ			●	●				
	アカザ	●							
スベリヒユ科	センニチコウ	●							植栽
	スベリヒユ	●		●					植栽
ハゼラン科	ハゼラン		●	●	●				
	ヨウシュヤマゴボウ			●	●				
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			●	●				
オシロイバナ科	オシロイバナ	●			●				
ミズキ科	ミスギ	●	●		●				植栽
	ヤマボウシ	●			●				植栽
	サンシュユ	●			●				植栽
アジサイ科	ウツギ	●							植栽
	ヒメウツギ	●							植栽
	アメリカノリノキ	●							植栽
	アジサイ	●			●				植栽
	ガクアジサイ	●		●	●				植栽
	バイカウツギ	●							植栽
ツリフネソウ科	ホウセンカ			●					植栽
	アフリカホウセンカ				●			総合-重点	
ハナシノブ科	シバザクラ	●						植栽	
モッコク科	ヒサカキ	●	●		●				植栽
	モッコク	●		●	●				植栽
カキノキ科	カキノキ	●	●		●			植栽	
サクラソウ科	マンリョウ	●	●		●				植栽
	コナスビ	●	●		●				植栽
ツバキ科	ヤブツバキ	●	●		●				植栽
	サザンカ	●		●					植栽
	カンツバキ	●							植栽
エゴノキ科	エゴノキ		●					植栽	
ツツジ科	ドウダンツツジ		●	●	●				植栽
	アセビ		●						植栽 苗圃
	サツキ		●	●	●				植栽
	セイヨウシヤクナゲ		●	●	●				植栽
	クルメツツジ		●						植栽
	ヒラドツツジ		●	●	●				植栽
アオキ科	アオキ	●	●					植栽	
アカネ科	クチナシ	●	●	●	●				植栽
	ヘクソカズラ	●	●						
	クササンタンカ	●			●				植栽 ベンタス
	ハクチョウゲ	●			●		EN		植栽
キョウチクトウ科	キョウチクトウ	●							植栽
	ルリトウワタ	●							植栽
	テイカカズラ	●							植栽
ムラサキ科	ルリカラクサ	●							植栽 ネモフィラ
	キュウリグサ			●	●				
ヒルガオ科	コヒルガオ			●	●				
	アイヨコヒルガオ	●		●					
	アオイゴケ属の一種	●							ディゴンドラ
	エポルブルス ピロスス	●							アメリカンブルー、エポルブルス
	アサガオ			●					総合-重点 植栽
	マルバアサガオ	●		●					総合-重点 植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(4/4)

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	池袋の森	駒込 小学校	富士見台 小学校	国RL	都RL (区部)	外来種	備考
ナス科	ニオイバシマツリ	●							植栽
	ピーマン			●	●				植栽
	アメリカイヌホオズキ				●				
	トマト			●	●				植栽
	ヒヨドリジョウゴ	●	●	●	●				
	ナス			●	●				植栽
	イヌホオズキ	●	●	●	●				
モクセイ科	タマサング	●	●						
	ジャガイモ			●	●				植栽
	シクレンギョウ				●				植栽
	シマトネリコ	●							植栽
	ハコロモジャスミン	●							植栽
オオバコ科	ネズミモチ	●	●	●					植栽
	トウネズミモチ	●	●	●				総合-重点	一部植栽
	キンモクセイ	●	●	●	●				植栽
	ヒラギモクセイ	●	●	●	●				植栽
	アングロソウ	●							植栽 アンゲロニア
	ヒメキンギョソウ	●							植栽
	オオバコ	●	●	●	●				
アゼナ科	ウリクサ	●							
	コムラサキ	●	●		●		CR		植栽
シソ科	ムラサキシキブ	●	●		●				植栽
	クサギ		●						
	カキドオシ	●							
	ホトケノザ	●							
	ラベンダー	●							植栽 イングリッシュラベンダー
	コショウハッカ	●							植栽 ペパーミント
	シソ				●				
	ハナトラノオ	●							植栽
	ガラニチカセージ	●							植栽
	ヒコロモソウ				●				植栽 サルビア
	サギゴケ科	トキワハゼ		●	●	●			
キリ科	キリ		●						
キツネノマゴ科	ハアザミ			●					植栽
	キツネノマゴ		●						
モチノキ科	ヤナギハレライソウ	●						総合-その他	植栽 ルエリア
	イヌツゲ		●						植栽
	モチノキ		●	●					植栽
キキョウ科	クロガネモチ			●	●				植栽
	フウリンソウ	●							植栽
ミツガシワ科	ヒナギキョウ			●					
	ミツガシワ	●					CR EN		植栽
キク科	アサザ		●		●		NT EN		植栽
	マルバフジバカマ	●			●			総合-その他	
	ムラサキカクコウアザミ	●						総合-その他	植栽 アゲラタム
	モクシュンギク	●							植栽 マーガレット
	ヨモギ	●		●	●				
	シオン属の一種	●							植栽 クジャクアスターなど
	アステリスクス マリチムス	●							植栽 ゴールドコインデージー
	コセンダングサ	●	●						
	ヒメコスモス	●							植栽
	ノジギク	●							植栽
	キク	●						総合-その他	植栽 イエギク
	コスモス	●				●			植栽
	マメカミツレ	●							
	ヤグルマギク	●							植栽
	アメリカタカサブロウ				●				
	タカサブロウ				●			*④	
	ヒメジョオン	●	●						総合-その他
	ヒメムカシヨモギ	●	●		●				
	ハルジオン	●	●		●	●			
	オオアレチノギク	●			●	●			
	ツワブキ				●				植栽
	デンニンギク属の一種	●							植栽 ガイラルディア
	ハキダメギク	●	●		●	●			
	タチチコグサ	●			●				
	ウラジロチコグサ	●	●		●	●			
	チコグサモドキ	●			●	●			
	クンショウギク	●							植栽 ガザニア
	ヒマワリ	●			●				植栽
	シロタエギク	●							植栽
	ノースポールギク	●							植栽 ノースポール
	メランポディウム ディウエリカツム	●							植栽 メランポジウム
	フキ				●	●			
	セイタカハハコグサ		●						
	オオハンゴンソウ属の一種	●							植栽 ルドベキア
	セイタカアワダチソウ	●				●			総合-重点
	ノゲン	●	●			●			
	ヒロハホウキギク	●				●			
フレンチマリーゴールド	●			●				植栽	
シルバーレース	●							植栽	
セイヨウタンポポ	●	●		●	●			総合-重点	
オニタビラコ	●	●		●	●				
ヒヤクニチソウ	●							植栽 ジニア	
ガマズミ科	ガマズミ	●							植栽
	サンゴジュ		●	●					植栽
スイカズラ科	ハナノツクハネウツギ	●	●		●				植栽
	ウコギ科	●	●						植栽
トベラ科	カクレミノ	●	●	●					植栽
	ヤツデ	●	●	●	●				植栽
セリ科	トベラ	●							植栽
	ミツバ		●						
	セリ	●	●	●	●				植栽
	ハナカザリゼリ	●						植栽	
109	389	233	146	154	156	4	7	24	

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ

水域の植物は、主にヒメガマ、フトイ、ヨシ、スイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）で、昨年度と同様である。レッドリスト記載種では、上流部にミクリとハンゲショウ、南東部にミツガシワが植栽されているが、いずれも個体数は多くない。浮島ではヨシが生育している。外来種のキシノウズは、今年度は確認されなかった。また昨年度、来園者に持ち込まれたと思われる外来種のおオサンショウモも、今年度は確認されなかった。

浮遊植物のホテイアオイがボランティアの方により今年度も植栽されている。重点対策外来種であるが、つながった水域はないため、逸出の可能性は低い。

陸域には木本類が植栽されており、季節の花や実が楽しめるようになっている。草本類では外来種のセイタカアワダチソウが目立ち、これまでのいのちの森で確認されていたマルバフジバカマも侵入していた。タマスダレや、在来種のおカタラノオは、昨年度、他種に被陰されていたためか、今年度は確認されなかった。

②いのちの森

常緑広葉樹を中心とした植樹林である。高木にシラカシ、タブノキ、クスノキなどが、低木にトベラ、シモツケ、クチナシ、ハナヅノツクバネウツギなどが植栽され、昨年度と大きな変化はなかった。林床に生育している外来草本のマルバフジバカマがやや増加し、いのちの森以外の草地やビオトープなど、園内全域に広がっているようである。外来木本のハリエンジュ、ニワウルシ、トウネズミモチは、定期的な伐採により、生育はしているものの開花や結実は見られなかった。

2) 池袋の森

池に設置されたコンテナの中に、セリとヒメガマ、アサザが植栽されている。池の中には、目視で確認する限り、植物は生育していないようであった。

池の周囲にはハランやセキショウなどが植栽されている。池の西側は樹林地で、キンモクセイやヤツデといった常緑樹が上空にせり出している。東側は園路があり、明るい空間となっている。

林内では、研究用に導入されたコウヨウザン、ベニバナトチノキ、カシグルミなどの外国産の樹木が大径となっている。果樹のエリアにはブドウ、カキノキ、クリ、ヒメコウゾなどが植栽されている。林床には、オオバノイノモトソウやミドリヒメワラビ、テリハヤブソテツといったシダ類や、在来種のアオミズなどが生育し、湿り気を保った樹林であることがうかがえる。ボランティアの方による植栽で、リョウメンシダやヒガンバナなども生育していた。平成27年度調査では、林下や郊外の路傍に生育する種であるヤブタバコが確認されていたが、今回の調査では確認されなかった。

主な外来種として、トウネズミモチが高木化し、盛んに結実していた。また、ノハカカラクサも数か所でマット状に広がり、開花していた。

草地は、ケチヂミザサやヒナタイノコヅチ、ヘビイチゴなどの、主に在来草本が生育している。樹林地との境の林縁部にはヤブミョウガが生育し、ヤブマメやカラスウリ、キカラスウリといったつる性草本も見られた。

3) 駒込小学校

池にはオオカナダモが植栽されている。春期調査では、金魚藻として流通しているフサジュンサイ（ハゴロモモ）も確認したが、秋期には消失していた。池の石垣には、ドクダミやミドリヒメワラビ、タネツケバナなどの湿った環境を好む種が生育していた。また、レッドリスト記載種のキケマンも1個体生育し、開花後の萎れた花をつけていた。キケマンは百葉箱が設置されているフェンス内にも1個体あり、こちらは調査時には葉のみの状態であった。

畑には野菜類のほか、メヒシバやツユクサ、ヨモギ、イヌガラシなどのいわゆる畑地雑草が生育していた。イヌガラシには、モンシロチョウが吸蜜や産卵に訪れていた。畑の横には、ムクロジやゲッケイジュ、ミカン属の一種などの樹木が植栽されていた。

田んぼはコンクリート造りで、調査は灌水前であったが、水田雑草と呼ばれるものや湿地に特異的な種は特に見られなかった。ノハラスズメノテッポウが生育していたが、これは水田に多いスズメノテッポウの畑地型である。

主な外来種として、ビオトープの南側と東側に、ノハカタカラクサがマット状に広がっていた。また、北側の隣家の高木がビオトープ側にせり出し、その中に結実したトウネズミモチがあり種子を落としていた。

4) 富士見台小学校

池の造成以前から残る、大径のタイサンボクやメタセコイア、ミズキなどの樹木が生育している。池はこれらの樹木に覆われ、日陰の環境である。

池にはオオカナダモが、中央の鉢にはセリとアサザが植栽されている。池の周囲には、草本ではセリやセキシウなどが植栽されている。ビオトープ内に下草は少ないが、造成後に入ってきたと思われる種としては、マルバフジバカマやアメリカスミレサイシンなどの半日陰を好む外来種や、鳥散布によって持ち込まれたシュロの実生などがあつた。比較的日照のある、校庭側のフェンス沿いでは、ハナズオウの実生やヤブマメが生育していた。管理が必要な外来種としては、隣接する道路からノハカタカラクサが侵入していたほか、繁殖力の強いオオキバナカタバミもビオトープ内外に生育していた。校庭には結実したトウネズミモチの高木があり、ビオトープ内で実生が確認された。

ホタルが飼育されていた水路沿いにはヤツデやトクサが植栽されており、その上にはモッコクやアラカシの高木が生育していた。



ハンゲショウ
(令和4年5月25日 南長崎はらっぱ公園)



ミツガシワ
(令和4年5月25日 南長崎はらっぱ公園)



ヒメガマ
(令和4年10月19日 南長崎はらっぱ公園)



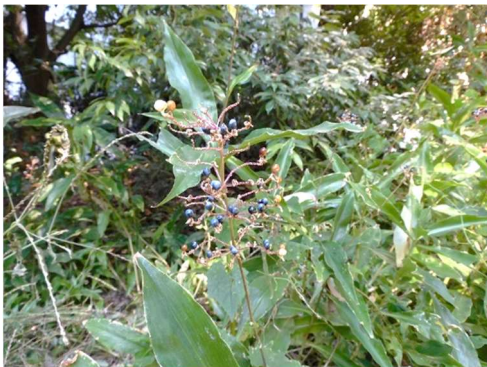
マルバフジバカマ
(令和4年10月19日 南長崎はらっぱ公園)



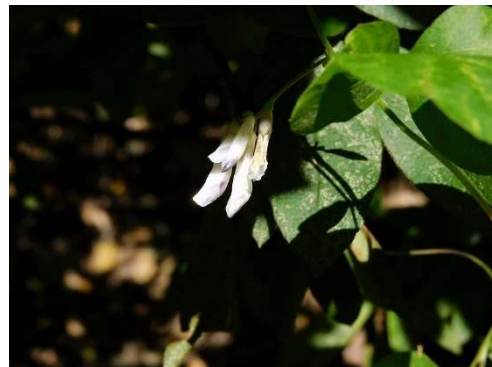
クリ
(令和4年5月24日 池袋の森)



カキノキ
(令和4年10月20日 池袋の森)



ヤブミョウガ
(令和4年10月20日 池袋の森)



ヤブマメ
(令和4年10月20日 池袋の森)

図Ⅲ-1-3 確認された主な植物 (1/2)



フサジュンサイ
(令和4年5月24日 駒込小学校)



イヌガラシ(モンシロチョウ飛来)
(令和4年5月24日 駒込小学校)



ミドリヒメワラビ
(令和4年10月20日 駒込小学校)



タカサブロウ
(令和4年10月20日 駒込小学校)



ヤブマメ
(令和4年10月19日 富士見台小学校)



モッコク
(令和4年10月19日 富士見台小学校)



オオキバナカタハミ
(令和4年10月19日 富士見台小学校)



アメリカスミレサイシン
(令和4年10月19日 富士見台小学校)

図Ⅲ-1-3 確認された主な植物(2/2)

(5) 考察

1) 南長崎はらっぱ公園

池の上流はフトイ、ヒメガマ、ヨシが優占している。これらに混ざり、植栽ではあるがレッドリスト記載種のみクリとハンゲショウが生育している。個体数が少ないため、ヨシなどと一緒に刈ってしまわないよう気を付ける必要がある。春期調査の際に「南長崎はらっぱ公園を育てる会」の方にお伝えしたところ、ハンゲショウをロープで囲み対策していただいた。今後も、保全対象種に目印をつけるなど、ボランティアの方が管理しやすい方法を提案しながら、連携を図っていきたい。優占種のヒメガマは池全体に進出しており、今後さらに増えると予想されるため、年に1回程度、地下茎の間引きを行えるとよい。

昨年度の秋期調査で確認されたホテイアオイとオオサンショウモは、今年度の春期には確認されなかった。越冬できなかったか、アメリカザリガニに捕食されたものと思われる。そこで、今年度もホテイアオイの導入が試行された。ザリガニの食痕の有無やホテイアオイの増減は、ザリガニの捕食圧を知るひとつの手がかりとなるため、引き続き探っていく。

陸地では、外来種のセイタカアワダチソウが増加傾向にある。花期には昆虫の蜜源となるが、多年草で繁殖力が強いため、種子をつける前の11月頃に除去することが望ましい。根は比較的簡単に引き抜くことができる。

観賞目的で植栽されたタマスダレとオカトラノオは、今年度は確認することができなかった。昨年度、フェンス沿いのハナヅノツクバネウツギとビヨウヤナギに被陰されていたためと思われる。フェンスには他にも、ワイヤープランツやテイカカズラなどが這っているが、これらも生長してきているため、一度剪定が必要であると思われる。

2) 池袋の森

平成27年度の調査と比較すると、種の入れ替わりは多少あるが、種数はほぼ維持されていた（平成27年度：148種、令和4年度：146種）。

池では、セリやアサザなどの水草はコンテナの中で生育し、アメリカザリガニの被害を免れていた。このコンテナは、トンボ類のヤゴなど水生生物にとっても重要なすみかとなっている。

林内は、外国産の高木が主体でありつつも、サワラやクヌギなどの在来種や、マサキ、ヤブツバキといった中低木も植栽されている。林床では、山野の陰湿地に生育するアオミズや、数種のシダ類が確認された。乾燥しがちな都市部において、湿り気を保った樹林は多くなく、貴重な環境である。環境維持の一つの方法として、マント群落の形成がある。つる性植物を一部残し、マントのように高木を覆うことで、林内への風の吹き込みを減らし、乾燥を防ぐ効果を期待することができる。また、林縁を利用する昆虫類の増加にもつなげることができる。

管理が必要な外来種として、トウネズミモチが林内で結実していた。園内には野鳥が多く訪れているため、結実後に実がついた部分だけでも剪定しておけると、種子散布を防ぐことができる。また、樹林と草地にノハカタカラクサが広がっていた。常緑で耐陰性があり、暗い林内でも生育することができる。林床の他の植物を被陰している可能性があるため、目立ちやすい冬期に抜き取っておけるとよい。

3) 駒込小学校

池周りは日陰で、湿った環境を好む植物が生育している。池の石垣では、シダ類ではホウライシダやイノモトソウ、ミドリヒメワラビなどが確認された。シダ類以外の草本では、ドクダミやタネツケバナなどが確認された。タネツケバナは、外来種のミチタネツケバナよりは自然度の高い、水路際などの水辺に出現する種である。

畑は日向のため、池周辺とは異なる植物相である。普通種ではあるが、ヨモギやツユクサなど、畑地に特徴的な草本が生育している。コンクリートで覆われることの多い都市部では、こうした土の露出した地面は少ない。作物の栽培に影響のない範囲で、このような‘雑草’も残しておけると、植物だけでなくチョウ類やバッタ類など多様な生物の餌場やすみかとなる。

レッドリスト記載種のキケマンは、一年草（越年草）で、明るい草地などを好む。種子はアリによって散布される。4～5月に特徴的な形の黄色い花を咲かせるため（図Ⅲ-1-1参照）、確認された場合は、本種の除草は避けることが望まれる。

主な外来種として、校庭のトウネズミモチが結実していた。花や実がついた部分だけでも剪定し、種子散布を防げるとよい。また、ビオトープの一部に、ノハカタカラクサがマット状に生育していた。現在、具体的に他の草本を脅かしている様子はないが、年々広がるため早めに除去できるとよい。

4) 富士見台小学校

もとの林を活かした造りで、大径の樹木が池に近接している。木々が生長し、造成当時よりも日陰の割合が多くなっているようである。

下草を刈り残したエリアでは、レッドリスト記載種のベニイトトンボが確認されている（2. 昆虫類調査を参照）。下草にはドクダミやミズヒキなどの在来種も生育しているが、マルバフジバカマやアメリカスミレサイシン、ノハカタカラクサ、鳥散布によって芽生えたシュロの実生など、耐陰性のある外来種も目立っていた。これらが今後も増えるようであれば、選択的に除草することが望ましい。

常緑高木の剪定等により、日照を確保することができれば、池のアサザの開花や、草本層の多様性の向上、それに伴う訪花昆虫の増加なども期待できるが、ベニイトトンボは樹木に囲まれた水辺を好むため、当面は高木層への変化は加えずに環境を維持できるとよい。

2. 昆虫類調査

(1) 調査結果概要

昆虫類は、10目61科127種が確認された（科、属まで判明したものを含む（表Ⅲ-2-1））。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 73 種、駒込小学校で 42 種、池袋の森 52 種、富士見台小学校 49 種であった。

(2) レッドリスト記載種

富士見台小学校ビオトープ池周辺において、国RLで準絶滅危惧（NT）、都RL（区部）で絶滅危惧Ⅱ類（VU）のベニイトトンボを確認した。

(3) 外来種

生態系被害防止外来種リスト記載種に当たる種の記録はなかった。

南長崎はらっぱ公園、富士見台小学校においてキマダラカメムシを確認した。この種は1770年代に長崎で初確認されて以来、200年間ほど日本での記録がなく、近年になって目立って確認されるようになった。現在外来種としての扱いは安定していないが、ここでは北上傾向を持つ国内外来種として扱った。



キマダラカメムシ

(令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-1 確認された主な外来種(昆虫類)

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(1/2)

目名	科名	種名	南長崎 はらっぱ公園		池袋の森		駒込 小学校		富士見台 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
			夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋					
トンボ	イトトンボ	ベニイトトンボ							●		NT	VU			
		アジイトトンボ							●						
	トンボ	イトトンボ科の一種				●									
		コノシメトンボ		●											
		ウスバキトンボ		●		●									
カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	●			●									
		マルムネハサミムシ		●											
	ハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ									●				
		キリギリス		●											
		コオロギ		●		●			●		●				
バッタ	マツムシ	ハラオカメコオロギ		●				●		●					
		ツツレサセコオロギ		●		●				●					
		コオロギ類の一種		●						●					幼虫
		アオマツムシ				●									
		カネタタキ		●		●			●		●				
	オンブバッタ		●		●		●	●	●	●					
	バッタ	コバネイナゴ				●									
		ショウリョウバッタ		●		●									
	イボバッタ	イボバッタ		●											
		ミドリグンハイウンカ		●		●					●	●			
カメムシ	セミ	アブラセミ						●							
		ツクツクボウシ		●											
		ミンミンゼミ				●			●						
		ニイニイゼミ				●			●						
	ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ	●	●							●				
		オオヨコバイ							●						
	グンバイムシ	●	●						●						
	カスミカメムシ	アカホシカスミカメ							●						
		イネホソミドリカスミカメ	●												
	ヒメヘリカメムシ	●	●												
	イトカメムシ	●	●							●	●				
	ナガカメムシ	●	●	●	●					●	●				
	ツチカメムシ	ツチカメムシ	●												
		キマダラカメムシ	●	●							●				
	カメムシ	クサギカメムシ							●						
		チャバネアオカメムシ		●											
	アメンボ	ヒメアメンボ							●						
		カヌビロアメンボ		●					●						
	ミズムシ	コミスミシ属の一種							●						
		ホソバヒメカゲロウ	●								●				
アミメカゲロウ	イチモンジセセリ		●		●			●		●					
	チャバネセセリ									●					
チョウ	アゲハチョウ	クロアゲハ								●					
		ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●					
シロチョウ	アオスジアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
	キタキチョウ				●										
シジミチョウ	モンシロチョウ	●	●	●	●					●					
	ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●					
タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	●	●	●	●					●					
	ヒメジャノメ		●						●						
ツトガ	シバツトガ	●													
	シロオビノメイガ		●		●			●							
シャクガ	ノメイガ亜科の一種	●													
	ウスキクロテンヒメシャク								●						
スズメガ	ナミスジチビヒメシャク				●										
	オオスカシバ	●	●	●											
ヒトリガ	ホシホウジャク				●										
	セスジスズメ								●						
ヤガ	キハラゴマダラヒトリ		●												
	アオアツバ							●							
ミズアブ	アメリカミズアブ	●													
	ムシヒキアブ	●													
アシナガバエ	シオヤアブ				●										
	ムシヒキアブ科の一種								●						
ハナアブ	アシナガキンバエ類の一種	●	●		●										
	ホソヒラタアブ		●		●										
ヤチバエ	ハナアブ		●												
	アシフトハナアブ	●													
ミバエ	ハイジマハナアブ類の一種									●					
	ヒメヒラタアブ属の一種														
クロバエ	ヒゲナガヤチバエ		●							●					
	ミスジミバエ				●										
ニクバエ	オオクロバエ		●		●					●					
	ツマグロキンバエ		●		●										
ニクバエ	キンバエ類の一種	●	●	●	●			●	●	●					
	ニクバエ科の一種	●	●	●	●	●	●	●	●	●					

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(2/2)

目名	科名	種名	南長崎 はらっぱ公園		池袋の森		駒込 小学校		富士見台 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考
			夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋				
コウチュウ	ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ	●		●									
		アオドウガネ			●		●							
	コガネムシ	シロテンハナムグリ								●				
		コウソクビタマムシ				●								カジノキ
	タマムシ	ヒロオビジョウカイモドキ							●					
	ジョウカイモドキ	テントウムシ	ニジュウヤホシテントウ							●				
		ナミテントウ		●										
		ダンドラテントウ		●	●									
		小型テントウムシ類の一種				●								クロヒメテントウ?
	ハムシ	ハムシ						●						
	ハムシ	ヘリクロテントウノミハムシ				●	●				●			
		ウリハムシ						●			●			
		クロウリハムシ		●					●		●			
		ツツジコブハムシ								●				
		キバラリクビボソハムシ		●										
		ルリマルノミハムシ		●										
		サンゴジュハムシ		●										
ノミハムシ亜科の一種						●								
ゾウムシ	コカシククチフトゾウムシ			●										
	ヒレルクチフトゾウムシ									●				
		スグリゾウムシ		●										
ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ	●		●				●	●				
	ヒメバチ	ヒメバチ科の一種			●			●	●					
	—	小型寄生蜂類の一種					●							
	ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ				●	●							
		キンケハラナガツチバチ				●	●							
	アリ	コモンツチバチ				●								
		ハラナガツチバチ類の一種								●	●			
		オオハリアリ							●					
		トビイロシワアリ		●	●						●			
	アリ	ハリフトシリアゲアリ						●						
		キイロシリアゲアリ					●							
		アミメアリ		●	●			●	●	●				
		クロヤマアリ		●	●			●	●	●	●			
		トビイロケアリ		●	●			●	●	●				
		アメロアリ				●			●					
		ウメマツオオアリ								●	●			
		セグロアシナガバチ		●	●					●				
	スズメバチ	コアシナガバチ		●	●									
		コガタスズメバチ		●		●	●	●	●					
		クロスズメバチ								●	●			
	セナガアナバチ	サトセナガアナバチ						●						ケヤキ樹幹
	コハナバチ	シロスジカタコハナバチ		●										
	ハキリバチ	ハキリバチ科の一種		●										
	ミツバチ	キムネクマバチ		●		●	●							
		セイヨウミツバチ		●		●								
	—	小型ハナバチ類の一種		●	●									
	10	61	127	49	47	31	37	23	27	27	34	1	1	0
			73		52		42		49					

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ピオトープ

夏期調査ではオオシオカラトンボを確認した。池周辺および花壇ではカスミカメムシ類やアカヒメヘリカメムシ、ヒメナガカメムシといったイネ科や園芸種の花につく小型のカメムシ類を確認した。目立ったところでは、植栽されたアベリアに訪れるキムネクマバチのほか、セグロアシナガバチなど花蜜を求めて頻繁に飛来するハチ類が8種確認できた（スズメバチ科3種、その他ハナバチ類5種）。

秋期調査時、コノシメトンボのほかウスバキトンボ、シオカラトンボを確認した。コノシメトンボは湿地や田んぼ、プールといった環境も繁殖に利用するなど、生息域の幅がやや広い種である。池の周りの草むらではクビキリギスの姿も見られた。秋期調査ではコオロギ類を3種確認している。この公園では継続的にハラオカメコオロギの鳴き声を確認出来ていることが特徴的である。チョウ類ではヒメジャノメの他、花壇と池周辺を行き来していると思われるヤマトシジミが頻繁に訪花していた。

②「いのちの森」、花壇

「いのちの森」では、芝生広場上空を飛行するウスバキトンボが確認でき、また南側に刈り残された公園敷地隅の草地ではショウリョウバッタが見られた。池に隣接する花壇では、季節を彩る園芸種の花のバリエーションが豊かなことから、チョウ、ハチ類がよく訪花しており、池周辺の昆虫類の種数の多さに貢献していると思われる。

2) 池袋の森

夏期調査では池周辺でシオカラトンボ、オオシオカラトンボを確認した。草地部分や林縁は変化を持たせるよう管理に工夫され、コバネイナゴやショウリョウバッタなどのバッタ類が見られた。また草本類にはイトカメムシのほか、ヒメナガカメムシやメヒシバに集まるヒゲナガカメムシといった小型のカメムシ類も比較的多く見られた。

秋期調査では、チョウ類が目立っていた。南側の明るい生垣周辺ではアベリアに訪花するナミアゲハやアオスジアゲハ、ツマグロヒョウモンといった大型の種が、林縁の草地ではカタバミに群れるヤマトシジミのほか、小さな花で吸蜜するキタキチョウやモンシロチョウが見られた。コウチュウ類ではアオドウガネのほか、カジノキの若木につくコウゾチビタマムシが見られた。これは体長3.5mm程度で銅光沢にかすかな白斑を持つ微小種であるが、体形はりっぱなタマムシである。

3) 駒込小学校

夏期調査時に、小さな池を中心に縄張り飛行するオオシオカラトンボを確認した。また規模の小さい水域ながら、ヒメアメンボやケシカタビロアメンボのほか、コムシ類の一種もみられた。敷地に隣接する屋敷林の樹冠部を飛行するアオスジアゲハのほか、畑部分を中心にヤマトシジミも見られた。今回調査でアブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミと3種のセミ類の鳴き声を確認できたのは駒込小だけである。校庭にある太いケヤキの幹上で、ゴキブリ類を狩る狩りバチの一種、サトセナガアナバチを記録した。樹幹の洞や樹皮の隙間などで営巣しているものと思われる。

秋期調査では、併設された田んぼでイネの葉に止まるアジアイトトンボを確認し

た。鳴く虫ではモリオカメコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギの3種が確認できた。チョウ類では、おそらく幼虫がイネを利用していると思われるイチモンジセセリ、ヒメジャノメがみられた。また畑では周辺で雑草として繁茂するヤブガラシにセスジスズメの幼虫がいた。

4) 富士見台小学校

夏期調査ではフェンス内の池周辺でベニイトトンボを確認した。小規模のビオトープ池は常緑樹に囲まれており、薄暗い環境となっている。地面に堆積した落ち葉の間ではコオロギ類の幼虫が多数跳ねているのを確認した。樹幹では小型のコウチュウ類、ヒロオビジョウカイモドキが見られた。ビオトープに隣接し、体育館の南側に沿って見られる畑ではニジュウヤホシテントウや草地性の小型昆虫が何種類か見られたほか、セグロアシナガバチがよく飛来していた。

秋期調査時、ビオトープ周辺ではモリオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギの鳴き声が良く聞かれた。隣接する畑ではシロテンハナムグリのほか、ウリハムシやクロウリハムシといったコウチュウ類が見られ、ハバチ類のルリチュウレンジも確認できた。また、夏期、秋期の両調査でクロスズメバチを確認した。近隣に営巣地があるものと思われる。基本的には地中に巣作りをするが、まれに天井裏でも営巣するらしい。



ベニイトトンボ 雌雄
 (令和4年7月19日 富士見台小学校)



オオシオカラトンボ 雌雄
 (令和4年7月27日 駒込小学校)



コバネイナゴ 幼虫
 (令和4年7月27日 池袋の森)



ショウリョウバッタ 雌
 (令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)



オンブバッタ 雌雄
 (令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)



オカメコオロギ類 幼虫
 (令和4年7月19日 富士見台学校)



ヤマトシジミ
 (令和4年7月27日 池袋の森)



アオスジアゲハ 幼虫
 (令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-2 確認された主な昆虫類 (1/2)



モンシロチョウ
(令和4年9月12日 池袋の森)



オオスカシバ
(令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)



ミドリゲンバイウヅカ
(令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)



ヒメアメンボ
(令和4年7月27日 駒込小学校)



ハラビロカマキリ
(令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)



シロテンハナムグリ
(令和4年9月6日 富士見台小学校)



キムネクマバチ
(令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)



シロスジカタコハナバチ
(令和4年7月19日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-2 確認された主な昆虫類 (2/2)

(5) 考察

①代表的昆虫類の記録からみたビオトープ

比較的親しみやすく、ビオトープ環境において指標種として扱われるトンボ類、バッタ類、チョウ類の調査状況を概観してみる。

トンボ類

大きなトピックとして、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）のベニイトトンボが確認された。確認した富士見台小学校のビオトープは、過去にホテル飼育を行っていたが現在は使用していない水循環系を含んだ古い小屋と、樹木に覆われた直径 1.5m ほどの池がフェンスで囲われた閉鎖環境である。ベニイトトンボはここで発生している（4. 水生生物調査を参照）。フェンス内の片隅には除草されずに残った草むらがあり、夏期調査ではここで未成熟成虫が複数個体過ごしているのを確認した。またビオトープに隣接して畑も併設されており、こちらで発生する小型昆虫類がベニイトトンボの重要な食資源である可能性も考えられよう。

このほか、駒込小学校ではアジイトトンボを確認したが、こちらはコンクリート製の田んぼを目指して飛来してきたものであろう。

今回ギンヤンマ、クロスジギンヤンマといった大型のヤンマ類成虫は確認できなかったが、水生生物調査では駒込小学校、池袋の森でギンヤンマ属幼虫を確認している。これらヤンマ類が今回調査対象としたビオトープにも訪れていることを間接的に示している。

バッタ類

オンブバッタが 4 地点すべてで確認できた。南長崎はらっぱ公園ではオギやアシなど草本類の刈り残された根元で成虫越冬するクビキリギスが確認できた。

秋期調査では 4 地点すべてでモリオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギの鳴き声を確認できた。過去の調査で南長崎はらっぱ公園で継続的に確認しているハラオカメコオロギは今回調査でも確認できた。このことは公園を取り巻く潜在的環境が草地的なものであったことの名残と言えるかもしれない。

南長崎はらっぱ公園と池袋の森のイネ科草本の残る草地ではショウリョウバッタが見られた。

チョウ類

イチモンジセセリ、ナミアゲハ、ヤマトシジミが 4 地点で確認できた。イチモンジセセリは総じて秋に目につくようであり、すべての地点の記録も秋期に集中した。ナミアゲハは夏期、秋期と頻繁に確認できた。ナミアゲハについては幼虫の食樹となるミカン科の木が校庭に植栽される例が多いことが要因のひとつと思われる。池袋の森の調査ではヤマトシジミが、草地の一部に繁茂するカタバミのまわりを多数飛翔するのを確認した。

その他、南長崎はらっぱ公園では「いのちの森」でアオスジアゲハの幼虫を確認したほか、花壇を訪れるツマグロヒョウモンも目立っていた。

②各調査地のビオトープ環境

確認生物種からみた各調査地のビオトープ環境についてと、保全や維持管理に関して述べる。

1) 南長崎はらっぱ公園

池畔の植生のほか、隣接する「いのちの森」との連携もあり多様な種が訪れていた。池にはトンボ類が飛来し、花壇ではチョウ類が見られ、「いのちの森」ではアベリアなどの花蜜を好んで飛来するオオスカシバも飛来していた。

体長 5mm ほどのシロスジカタコハナバチは花壇の花をよく好んで訪れていた。昨年調査で確認されたツルガハキリバチ同様、公園内もしくは比較的近距離の他の緑地で営巣しているものと思われる。

地元ボランティア活動との連携により、水辺環境の植生管理はよく維持されており、このことも昆虫類のバラエティの豊かさに貢献している。

ネックはやはりアメリカザリガニの存在であり、一度水系に侵入されてしまうと駆除作業を継続しても根絶は難しい。

2) 池袋の森

除草や樹木の剪定、そのほか池の状態に関してなど、生きものに重点を置いた適切な管理がとられているためか、コンパクトな空間でありながら変化に富んだ環境になっている。全体は樹林に覆われているが、周遊路に沿った草地は定期的に除草がなされ、一部に群落をつくるカタバミにヤマトシジミが群れており、メヒシバ、エノコログサといった草本に小型の草地性カメムシ類などが集まるなど多様性が見られる。

歴史のある園内の樹々は大きく育っており、隣接する民家との兼ね合いで管理上の課題もあると思われる。長期的に見た場合、一部の樹木を伐採し新たな若木に更新することによって、スポット的な明るい環境をあえて創出するなどの管理により環境の変化を維持できる可能性がある。このほか特徴としてアズマヒキガエルやニホンアカガエル、また樹木まわりに生息するニホンヤモリといった小動物もみられ、これらの種が昆虫類に依存していることを鑑みると、この小さな森が非常に重要な緑地であると見て取れる。

池については、やはりアメリカザリガニが大きな影響を与えているため、極力個体数を抑制する管理が望まれる。

3) 駒込小学校

畑地、田んぼ、小規模ながら池といった環境が見られた。栽培された野菜に集まる昆虫のほか、田んぼではアジアイトトンボなど水辺で見られる種やイネに依存するヒメジヤノメといった昆虫類がみられた。

水辺環境としてのビオトープ池はオオシオカラトンボの飛来が見られたほか、ヒメアメンボやコミズムシ属、ケシカタビロアメンボといった水生カメムシ類が確認できたことから、良好な水辺環境が維持されているのが見て取れる。アメリカザリガニの侵入がみられない点も、水生生物の生息状況にとって良い影響を与えている。

これ以降もアメリカザリガニを侵入させないことと、定期的な給水を維持していくことが非常に重要である。

また水生植物を移植する場合、アメリカザリガニだけでなく、ヌマエビ類や巻貝類等の外来種の混入がないかを入念にチェックすることが望ましい。

4) 富士見台小学校

ビオトープはフェンスで囲われており、敷地への出入りが制限されている。これがベニイトトンボの生息に良い影響をもたらしているようである。夏期には敷地の一角に刈り残した草本の群落があり、池で羽化したベニイトトンボの未成熟成虫に格好の生息環境を提供している。この池において、アメリカザリガニが見られない点が非常に良好な要素である。また、隣接する畑の存在もベニイトトンボ成虫にとって大きいと考えられる。都内ではベニイトトンボの生息地自体が少なく、豊島区においてはここのほか確実な記録があるのは未来館大明（2016年8月に調査・確認：敷地内の水域で見られたが、このとき幼虫確認はしていない）、南長崎はらっぱ公園（平成30年に飛来個体の確認）程度であり、非常に貴重である。

池自体は、周辺の樹木から落ちてくる枯れ葉の定期的な除去（底には水生生物の隠れ家、食物になるようある程度残す）、定期的な給水による水深の保持、抽水・沈水植物の管理と、やはりアメリカザリガニを絶対に侵入させないことが肝要である。

隣接する畑も昆虫類にとっては十分な面積がある。環境学習の一環として野菜栽培に利用するほか、あえて一部区画に草本の群落を残しておくことも生物多様性にとって大きな意義があるであろう。

3. その他小動物調査

3-1 哺乳類

今回の調査では、哺乳類の確認はなかった。

3-2 爬虫類

(1) 調査結果概要

1目1科1種を確認した(表Ⅲ-3-1)。

駒込小学校、池袋の森、富士見台小学校においてニホンヤモリを確認した。

(2) レッドリスト記載種および外来種

1) レッドリスト記載種

国RL記載種の確認はなかった。

都RL(区部)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)のニホンヤモリを確認した。

表Ⅲ-3-1 爬虫類確認種一覧

目名	科名	種名	南長崎 はらっぱ公園		池袋の森		駒込小学校		富士見台 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考
			夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋				
有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ			●	●		●	●			VU		
1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	
			0		1		1	1		1				

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(3) 考察

ニホンヤモリは、爬虫類としては都市部においても比較的確認されやすい種である。主に樹洞や樹皮下、樹名板の裏や木造建築の隙間で生活しており、近代建造物では確認されにくい。かつては区内でも普通にみられたが、現在では身を潜める場所がなくなり個体数も減少している。池袋の森では、樹名板の裏側に潜んでいるのを確認できた。

ニホンヤモリは、古い木造住宅の板塀の隙間や、木に掛けられた鳥の巣箱なども利用するため、こうした場所に身を隠せるよう、樹名板やヤモリ用の巣箱といった人工的なすみかを設置することも効果的である。

3-3 両生類

(1) 調査結果概要

1目2科2種、アズマヒキガエルと、ニホンアカガエルを確認した（表Ⅲ-3-2）。

アズマヒキガエルは、南長崎はらっぱ公園で5cm程度の個体を、池袋の森で4cm程度の個体を確認した。冬期には、南長崎はらっぱ公園で成体1個体と卵塊3腹分程度、池袋の森で成体20個体以上と卵塊5腹分程度を確認した。

ニホンアカガエルは池袋の森で確認された。管理者によると長期に渡ってこの地点では生息が確認されているとのことであった。

(2) レッドリスト記載種および外来種

1) レッドリスト記載種

国RL記載種の確認はなかった。

都RL（区部）で絶滅危惧Ⅱ類（VU）のアズマヒキガエルと、絶滅危惧ⅠB類（EN）のニホンアカガエルを確認した。

表Ⅲ-3-2 両生類確認種一覧

目名	科名	種名	南長崎はらっぱ公園			池袋の森			駒込小学校			富士見台小学校			国RL	都RL(区部)	外来種	備考
			夏	秋	冬	夏	秋	冬	夏	秋	冬	夏	秋	冬				
カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	●	●	●	●								VU		
	アカガエル	ニホンアカガエル				●	●									EN		
1	2	2	1	1	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
			1			2			0			0			0	2	0	

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(3) 考察

ビオトープ池の創出は、小規模であってもアズマヒキガエルの繁殖の場を提供することができるため、非常に意義のあることである。

本種は夜行性であり、日中の調査では確認確率が低い。また、上陸後乾燥に耐える大きさに成長できたものは遠距離を移動して生息域を拡げる生態を持つが、移動途中の舗装道路での轢死や、成体が生息できるような環境（土のある庭の草むらなど）が少ないなどのリスクも多い。本種が生息するためには、日中に身を隠すことができ、夜間に小動物を採食することのできる樹林や藪などが必要である。

池袋の森は、周辺をビル群に囲まれた都心の孤立環境であるため、ニホンアカガエルの生息は非常にまれな記録と思われる。管理にあたって、生きもののみならず緑地および周辺環境の歴史的成り立ちを管理者が踏まえており、これが緑地保全に非常に大きなプラスとなっている。



ニホンヤモリ
(令和4年7月27日 池袋の森)



ニホンアカガエル
(令和4年7月27日 池袋の森)



アズマヒキガエル
(令和4年7月27日 池袋の森)



アズマヒキガエル 卵塊
(令和5年3月1日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-3-1 確認された両生類、爬虫類

4. 水生生物調査

(1) 調査結果概要

水生生物は、4門6綱13目23科26種が確認された(表Ⅲ-4-1)。種の判明していないもので、重複しているおそれのあるものは、種数合計に含めていない。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園10種、池袋の森13種、駒込小学校9種、富士見台小学校11種であった。

(2) レッドリスト記載種

富士見台小学校ビオトープ池周辺において、国RLで準絶滅危惧(NT)、都RL(区部)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)のベニイトトンゴを確認した。

移入種であるが、参考までにレッドリスト記載種を示す。

国RL記載種は以下の1種であった。

(絶滅危惧Ⅱ類) ミナミメダカ? (南長崎はらっぱ公園、池袋の森、駒込小学校)
(準絶滅危惧種) ドジョウ (駒込小学校)

都RL(区部)記載種は以下の2種であった。

(絶滅危惧ⅠA類) ミナミメダカ? (南長崎はらっぱ公園、池袋の森、駒込小学校)
(留意種) ヌカエビ (南長崎はらっぱ公園)

メダカ属の一種は、関東地方に分布するのはミナミメダカであるが、移入された個体で由来がはっきりせず、種までの同定には至らなかった。



ベニイトトンゴ 幼虫
(令和4年9月6日 富士見台小学校)



ドジョウ
(令和5年3月2日 駒込小学校)

図Ⅲ-4-1 確認された主なレッドリスト記載種(水生生物類)

表Ⅲ-4-1 水生生物確認種一覧

門名	綱名	目名	科名	種名	南長崎 はらっぱ公園			池袋の森			駒込小学校			富士見台 小学校			国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
					夏	冬	夏	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬						
軟体動物	腹足	新生腹足	タニシ	ヒメタニシ																	
			カワニナ	カワニナ																	
			モリアラガイ	モリアラガイ科の一種																	
			サカキガイ	サカキガイ																	外来種
			ヒラマキガイ	ヒラマキガイ																	
			ミズミズ	ミズミズ科の一種																	イトミミズ科とする場合もある
			-	-																	
			ヒル	ヒル綱の一種																	
			ケンミジンコ	ケンミジンコ目の一種																	
			ヨコエビ	マシズヨコエビ																	総合-その他
節足動物	軟甲	エビ	ヌカエビ	ヌカエビ															外来種		
			カワリス	カワリスマエビ属の一種																来園者による放流?	
			アメリカザリガニ	アメリカザリガニ																造成当初の放流	
			コカゲロウ	コカゲロウ属の一種																	総合-緊急
			イトトンボ	イトトンボ																	
			ヤンマ	ヤンマ																	
			トンボ	トンボ																	
			カメムシ	カメムシ																	
			ハエ	ハエ																	
			脊椎動物	硬骨魚	コイ	メダカ	メダカ														
ドジョウ	ドジョウ																				造成当初の放流
メダカ	メダカ																				造成当初の放流、ヒメダカ・白色品種を含む、ミナメダカであれば絶滅危惧種
23	26	9				8	10	10	8	8	3	9	8	7	2(3)	2(3)	2				

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト
 EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
 「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。
 ※綱名、目名は「河川水辺の国勢調査 令和2年度水生生物リスト」を参照した。

(3) 外来種

生態系被害防止外来種リスト記載種が2種、確認された(図Ⅲ-4-1)。

(総合対策外来種 その他の総合対策外来種)

フロリダマミズヨコエビ (池袋の森)

(総合対策外来種 緊急対策外来種)

※2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定

アメリカザリガニ (南長崎はらっぱ公園、池袋の森)

南長崎はらっぱ公園で確認されたヨコエビ類の一種には、総合対策外来種でその他の総合対策外来種であるフロリダマミズヨコエビが含まれている可能性が高い。

その他、駒込小学校と富士見台小学校でサカマキガイが確認され、外来種は合計3種であった。



フロリダマミズヨコエビ
(令和5年3月2日 池袋の森)



アメリカザリガニ
(令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-4-2 確認された外来種(水生生物類)

アメリカザリガニは雑食性で落葉、水草、水生生物、生物の死骸などを摂食する。繁殖力が強く、個体数が急激に増加することで他の動植物の減少や消失を招く。生物保全を目的としたビオトープを管理する上では、駆除する必要があるといえる。

サカマキガイは具体的に在来種の存続を脅かした事例は無いようであるが、多産性で水槽内では水草を食害することがある。

フロリダマミズヨコエビは在来のヨコエビと競合するといわれているが、人工池で在来のヨコエビは確認されていないため、駆除等は必要ないと考えられる。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

3門4綱8目9科10種が確認された。

魚類は、メダカ属の一種とモツゴが記録された。ビオトープ池造成当時に放流されたドジョウは、今年度は確認されなかった。メダカ属の一種は、関東に分布するミナミメダカの可能性がある。今年度は個体数が多く、稚魚も確認された。

水生昆虫は、夏期調査でコシアキトンボの幼虫（ヤゴ）を1個体確認した。今年度は、クロスジギンヤンマやシオカラトンボ属の幼虫を確認することができなかった。魚類やトンボ類の幼虫の食資源となるミズミズ科の一種やアカムシと呼ばれるユスリカ科の一種の幼虫などは多数確認されている。

甲殻類では、造成当時に放流されたと思われるカワリヌマエビ属の一種が確認された。西日本産のミナミヌマエビと輸入された近縁のシナヌマエビ類のいずれかと推察される。また昨年度に引き続き、ヌカエビが確認された。ヌカエビは近畿以北～東北地方まで分布する日本固有種だが、平成30年度までの調査では確認されていないことから、飼育個体が来園者により放流されたものと思われる。アメリカザリガニは、ほとんどが未成熟の個体であったが、夏期調査では5cm以上のメスが2個体確認された。

2) 池袋の森

4門5綱10目12科13種が確認された。このビオトープ池は、全調査地の中で最も種数が多かった。

トンボ類の幼虫は、冬期調査でビオトープ池本体の浅瀬でシオカラトンボが1個体確認された。池の中央に設置されたコンテナでは、クロスジギンヤンマの幼虫が確認された。

魚類は、メダカ属の一種のうち白色品種が放流されていた。

外来種では、アメリカザリガニとフロリダミズヨコエビが確認された。どちらも個体数が多く、とくに冬期調査ではアメリカザリガニが70個体確認された。今年度生まれと思われる小さな個体も多数確認されている。

3) 駒込小学校

3門4綱6目9科9種が確認された。モノアラガイ類が多数確認された。

魚類は、メダカ属の一種（ヒメダカ）とドジョウが確認された。どちらも放流されたものである。ドジョウは国RLでは準絶滅危惧種（NT）、都RLでは情報不足（DD）とされている。

夏期調査では、シオカラトンボ属の一種とギンヤンマ属の一種の若齢幼虫が確認されている。トンボ類の食資源となる微小生物は確認されなかった。

4) 富士見台小学校

3門5綱8目10科10種が確認された。

オオシオカラトンボとシオカラトンボ、国RLで準絶滅危惧種（NT）のベニイトトンボの幼虫が確認された。ミズミズ科の一種やケンミジンコ科の一種など、トンボ類の幼虫の食資源となる微小な生きものが多数確認された。

過去にホタル類を飼育していた際に放流されたカワニナが数多く残っていた。冬期には多数のハナアブ科の幼虫が確認された。



カワニナ
(令和4年9月6日 富士見台小学校)



モノアラガイ類の一種
(令和5年3月2日 駒込小学校)



ミズミズ科の一種
(令和4年9月6日 富士見台小学校)



ヌカエビ
(令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)



カワリヌマエビ属の一種
(令和4年9月12日 池袋の森)



ギンヤンマ属の一種 幼虫
(令和4年9月12日 駒込小学校)

図Ⅲ-4-3 確認された主な水生生物類(1/2)



シオカラトンボ 幼虫
(令和5年3月1日 富士見台小学校)



コシアキトンボ 幼虫
(令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)



ユスリカ科の一種 幼虫
(令和5年3月1日 南長崎はらっぱ公園)



ハナアブ科の一種 幼虫
(令和5年3月1日 富士見台小学校)



モツゴ
(令和4年9月6日 南長崎はらっぱ公園)



メダカ属の一種(白色品種)
(令和5年3月2日 池袋の森)

図Ⅲ-4-3 確認された主な水生生物類(2/2)

(5) 考察

1) 南長崎はらっぱ公園

メダカ属の一種は水生植物に絡ませるように産卵する。コシアキトンボは浮遊している植物などに粘着性のある卵を付着させる。2種ともに本調査で繁殖が確認されているため、産卵環境があることがうかがえた。一方で、今年度は、クロスジギンヤンマの幼虫（ヤゴ）や羽化殻が確認されなかった。本種も水生植物に卵を付着させることが知られている。今後は、新たに植栽する水生植物に産卵床としての機能を持たせることが望ましい。

また、例年浅い水域で確認されてきたシオカラトンボ属の幼虫が確認されなかった。本種は水中に直接産卵するため、水生植物が少ない環境でも産卵が可能である。池には隠れ場所となる泥や落ち葉が溜まっており、食べものとなる微小生物も確認されているが、昆虫類は一般に個体数の年次変動があるため、今年度は少なかった可能性も考えられる。生息可能な環境は揃っているため、来年度以降もモニタリングを続け、経過を観察する必要がある。

外来種や放流された種については、淡水産ヌカエビ類のカワリヌカエビ属の一種はすでに定着している。今年度はヌカエビも数が多く、繁殖していることが判明した。自然水域の下流域では、在来種であるヌカエビのいる環境にカワリヌカエビ属が入り込むと、数年で種が入れ替わってしまう例があるが、このビオトープ池ではヌカエビも定着しつつあることが示唆された。フロリダミズヨコエビは、外来種ではあるが、他の在来種への影響は懸念されないため駆除の必要はないと考えられる。

アメリカザリガニは、今年度生まれた個体も確認されている。2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定され、飼育個体や別の場所から持ち込んだ個体の放流が禁止される。引き続き、ポスターで来園者へ放流に抑止を呼び掛けるなどの対策が必要である。

2) 池袋の森

本公園のビオトープ池は、水域が広く、水深の深いところと浅いところがあり、周囲に樹林がある。また、池の中央にはコンテナが設置されている。これらの複雑な環境が、全調査地の中で最も種数が多くなった一因と考えられる。

水深の浅いところではシオカラトンボが、コンテナではクロスジギンヤンマの幼虫が確認された。クロスジギンヤンマは水草に産卵するため、水草が保護されているコンテナに生息していたと推察された。これらトンボ類の幼虫は、ユスリカ科の一種の幼虫やミズミズ科の一種を摂食して生息していると考えられる。とくにコンテナではミズミズ科の一種の個体数が多かったため、今後も環境の維持が望まれる。

外来種では、フロリダミズヨコエビとサカマキガイについては、具体的に在来種の存続を脅かした事例は無いようなので、駆除の必要はないと考えられる。一方、アメリカザリガニは非常に多く、体長 5.0~8.0cm の繁殖可能な個体や、今年度生まれの小さな個体も確認されている。今後も駆除活動を継続し、環境改善を図ることで、より多様な生きものの生息が期待できる。

3) 駒込小学校

細長く狭いビオトープ池だが、水深の深いところと浅いところがあり、変化に富む環境である。オオカナダモが植栽されているため（1. 植生調査を参照）、浅い場所ではシオカラトンボ属の一種の幼虫が、深い場所にはギンヤンマ属の一種の幼虫がそれぞれ確認できたと推察された。しかし、食資源となる微小な生きものがほとんどいないことから、成長する環境としては厳しいものと考えられる。

個体数が多かったモノアラガイ類の一種は、水質を浄化する効果があるとされており、狭い池での良好な水質維持に寄与していると考えられる。

ドジョウは放流されたものであるが、国 RL では準絶滅危惧種（NT）、都 RL では情報不足（DD）とされているため、希少な生息環境として評価することができる。一方で、池を管理されている方によると、鳥類による捕食が示唆されている。個体数も少ないことから、今後継続して生息することは難しい可能性がある。

4) 富士見台小学校

小規模なビオトープ池であり、深い泥の上に落ち葉が堆積した富栄養な水域と考えられるが、カワニナが多数生息しており、水質浄化機能が働いていることが推察された。一方で、冬期調査では多数のハナアブ科の幼虫が確認されており、水中の落ち葉や花殻などが腐食し、水質が悪化していることが示唆された。

このビオトープ池では、国 RL で準絶滅危惧種（NT）のベニイトトンボが確認されており、貴重な生息環境である。ベニイトトンボは浮遊している植物などに産卵するため、オオカナダモなど（1. 植生調査を参照）を利用していると推察された。昆虫類調査では成虫が確認されており、池とその周辺の草むらを利用していった。ビオトープ池と周辺環境を一体として保全していくことが望まれる。

その他、トンボ類ではシオカラトンボとオオシオカラトンボの幼虫が確認されており、泥や落ち葉のある水域が生息に適していたと考えられる。ミズミズ科の一種やケンミジンコ目の一種が確認されており、食資源も豊富であると推察された。

5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案

(1) 南長崎はらっぱ公園

1) ビオトープ

アメリカザリガニの駆除作業を継続しつつ、池畔の植物が繁茂する時期に適度な除草を行って開放水面を確保することによって、トンボ類の飛来しやすい水辺ビオトープが維持できると考えられる。レッドリスト記載種のハンゲショウやミクリは残しつつ、増加傾向にあるヒメガマは年一回程度、地下茎を間引くことが望ましい。来年度のアサザ植栽にあたり、浮葉植物や沈水植物を植栽した場合にどのようなトンボ類が利用するのか、アメリカザリガニによる影響はどのようなものか、継続してモニタリングすることが望まれる。

また、都市公園内にあるビオトープで周辺住民にとって身近な緑地であり、さまざまな人が訪れる。アメリカザリガニは2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定され放逐が禁止されるが、認識が浸透するまでは持ち込まれることが今後も起こり得る。駆除作業と並行して、これらについても定期的に点検し、看板設置による普及啓発活動を実施することが適切である。

池の底質は粘土質であるが、ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫の食物となる落ち葉などの有機質が増えてきた。ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫などの底生生物はトンボ類の幼虫の食物となるので、この環境は維持できるとよい。

アズマヒキガエルの産卵環境として、適度に日の当たる浅い水域があり、卵塊を絡めて流れにくくするためのヨシやヒメガマ類等の枯れ葉があることが好条件である。深い水域と浅い水域の両方を維持することで、本公園のビオトープ池における生物多様性の維持につながると考えられる。

(2) 池袋の森

規模の大きなビオトープ池と園内の樹林を含めた複雑な環境が、生物相の豊かさを担保していると考えられる。一方で、アメリカザリガニの個体数が非常に多いため、今後も駆除作業を継続することが望まれる。コンテナ以外の水域では水生植物が乏しいため、アメリカザリガニの駆除が進んだ時点で水生植物を植栽できるとよい。水生植物が維持されれば、より広い範囲でトンボ類が繁殖し、より生物相が豊かな池になると考えられる。

植物では、対策が必要な外来種として、樹林地に生育しているトウネズミモチとノハカタカラクサが挙げられる。トウネズミモチは、鳥による種子散布を防ぐため、結実後に実がついた部分だけでも剪定しておけるとよい。ノハカタカラクサは、他の在来草本を被陰している可能性がある。防除のためには1本1本手で引き抜くことが必要である。目立ちやすい冬期に除草できるとよい。

(3) 駒込小学校

小規模なビオトープ池ではあるが、トンボ類の幼虫やドジョウなどの魚類が生息する環境であった。これらの生きものを鳥類による捕食から守るために、ビオトープ池全体を覆うように網をかぶせる方法がある。ただし、トンボ類の幼虫や魚類が食べる微小生物の食資源となる落ち葉などの有機物を、定期的に供給する管理作業が必要となる。

生物相を豊かにするために、アメリカザリガニが生息していないことも重要である。生物多様性の維持に関する正しい情報の周知を図ることが望ましい。

陸域では、都 RL で絶滅危惧 IA 類 (CR) のキケマンの生育も貴重である。春から

初夏にかけて開花、結実するため、その前に除草してしまわないよう保全が望まれる。

(4) 富士見台小学校

ビオトープ池と周辺の植生の継続的な管理により、ベニイトトンボが生息する環境の維持が可能と考えられる。また、現在は規模の小さな水域に泥と落ち葉が堆積し、富栄養な環境となっているが、冬期調査ではカワニナの水質浄化機能が追い付かなくなっている様子がみられた。

より生物相を豊かにするために、過去にホタルを飼育していたエリアの遮光ネットを取り外し、水を入れて水域を広げることが提案する。多様な条件の水辺ができ、生息できる生きものの種数の増加が見込める。また、堆積物の腐食や富栄養化による植物プランクトンの増大、植生が繁茂することの抑止にもつながる。

希少な生きものが生息できる理由の一つとして、アメリカザリガニが生息していないことも重要である。フェンスによる人の出入りの抑制を続けるとともに、生物多様性の維持に関する正しい情報の周知を図ることが望ましい。

(5) ビオトープ全般に対する提案

調査を通し、ビオトープの管理方法が分からない、管理に時間が割けない、授業での活用が難しい、などの声が各校の先生から聞かれた。これらの課題の解決に向けた一つの方法として、ビオトープの維持管理マニュアルの作成を提案したい。

ビオトープの管理には、ある程度共通した方法がある。例えば、アズマヒキガエルを誘致するためには産卵場所となる浅い止水域と、周辺に身を隠せる落ち葉溜まりや草むらを作ることが必要である。トンボ類を呼び込む場合は、上空から水辺を認識できるように水草を間引いて開放水面を確保する必要がある。これらの「ポイント」を、生きものの知識がない方にも分かりやすくまとめることで、管理の手助けとなることが期待される。

アメリカザリガニをはじめとする外来種や移入種の放流防止の呼びかけも、引き続き実施することが望ましい。アメリカザリガニやミシシippアカミミガメは、2023年6月1日より「条件付特定外来生物」に指定され、法的な扱いが変わるので、ポスターの掲示等で新しい情報も周知を図っていけるとよい。

令和4年度 豊島区動植物生態調査報告書

令和5年（2023年）3月発行

豊島区 環境清掃部 環境政策課